

基督教学研究

第 28 号

片柳榮一
名誉教授退任記念号

片柳榮一 名誉教授退任記念号 目次

片柳榮一 名誉教授略年譜・業績目録

論 文

人格と人格を越えるもの——西田哲学とキリスト教をめぐる一考察——	片柳 榮 一	一
パッチュの聖餐研究における類比の問題——旧約聖書のユダヤ教的類比について——	田 辺 明 子	三
古代教父思想における〈時間〉概念——エイレナイオス『異端反駁』の議論を中心として——	津 田 謙 治	三
ヨアンネス・クリュソストモスの神人共働論	武 藤 慎 一	三
儀礼におけるキリスト	大 月 栄 子	六
——偽ディオニシオス・アレオパギテースにおけるキリストについての一考察——		
ルター『詩編解釈』における〈情動〉について	竹 原 創 一	二七
初期シユライエルマツハーの〈教養〉概念	帆 苺 猛	三三

トレルチの『社会教説』と『社会学的基本図式』	高野晃兆	二五
近代キリスト教と政治思想——序論的考察——	芦名定道	一七
感情の芸術性と宗教性——ハイデガーの情態性論を起点として——	川桐信彦	一九
アーレントのアウグステイヌス解釈	今出敏彦	二九
はじまりはいつも悪——リクールにおける創造論の展開——	佐藤啓介	四二

彙報

A. 二〇〇八年度基督教教学専修講義題目

芦名定道 教授

講義 「キリスト教学概論」

特殊講義 「キリスト教思想における社会・政治・民族

(2)

演習 「日本・アジアのキリスト教——波多野精

一(1)——」

演習 「宗教と科学の新たな関係構築に向けて

——パネンブルク(1)——」〔Wolhart Pan-

nenberg, *Natur und Mensch — und die*

Zukunft der Schöpfung〕

演習 「キリスト教思想研究の現在」

演習 「キリスト教思想の諸問題」

演習(後期) 「新約聖書とその思想——イエスの譬え」

研究——」

土井健司 講師

特殊講義 「古代キリスト教思想とフィランソロピア

論の系譜」

辻 学 講師

特殊講義

「新約聖書概論——パウロ・第二パウロ・公
同書簡を中心に——」

今出敏彦 講師

演習 「ハンナ・アーレント『人間の条件』」

勝村弘也 講師

語学 「聖書ヘブライ語文法と講読」

B. 二〇〇八年度論文題目

修士論文

田代英樹 「Iコリント書15章における復活論再考」

卒業論文

栗原 崇 「カール・バルトと政治神学」

平川真澄 「内村鑑三の再臨思想」

松浦春菜 「母としての神——マクフェイグの理論への考
察——」

C. 二〇〇八年度研究発表会

第一回研究発表会

二〇〇八年十二月二十二日(土)、京都大学文学部第二講義室

水垣 渉 「パウロのローマ書における高揚した語り——
研究ノートから——」

研究ノートから——」

岩野祐介 「内村鑑三の万人救済論」

執筆者

『基督教学研究』投稿規定

片柳榮一	京都大学名誉教授
聖学院大学大学院教授	
田辺明子	プール学院大学名誉教授
津田謙治	明治学院大学非常勤講師
武藤慎一	大東文化大学准教授
大月栄子	京都大学大学院文学研究科後期課程学修
竹原創一	立教大学教授
帆苺猛	関東学院大学教授
高野晃兆	大阪工業高等専門学校名誉教授
芦名定道	京都大学大学院文学研究科教授
川桐信彦	文芸評論家
今出敏彦	京都大学文学部非常勤講師
佐藤啓介	聖学院大学人文学部助教

- 一、寄稿者は本学会員にかぎる。
- 二、内容は未発表の学術論文であること。採否ならびに掲載の時期は、査読委員による査読の報告に基づき、編集委員会が決定する。
- 三、寄稿原稿は、論文については四〇〇字詰原稿用紙四〇〜五〇枚（註・図表などを含む）相当、研究については三〇枚相当とする。
- 四、寄稿原稿の執筆細目および査読審査規定については、別途、原稿執筆要項等の内規にて定めることとする。
- 五、寄稿原稿には、欧文タイトル、執筆者欧文氏名を付記すること。
- 六、原稿が採用された場合、執筆者には抜刷三〇部を贈呈する。（本規定は二〇〇〇年十二月十六日から施行する）

Contents

- Person und Über-person—Überlegung über das Verhältnis
zwischen der Philosophie Nishidas und dem Christentum
.....Eiichi Katayanagi
- Das Problem der Analogien bei der Abendmahlsforschung von
Hermann Patsch—die Frage nach den Analogien der
alttestamentlich-jüdischen Provenienz—Akiko Tanabe
- Der Begriff »Zeit« eines antiken Kirchenvaters.....Kenji Tsuda
- The Doctrine of Synergy in John Chrysostom.....Shinichi Muto
- De Christo in liturgis in Pseudo-DionysioEiko Ootsuki
On “affectus” in Luther’s Interpretation of Psalms
.....Soichi Takehara
- Der Begriff »Bildung« bei früherem Schleiermacher
.....Takeshi Hokari
- »Soziallehren« und »das soziologische Grundschema«
.....Teruyoshi Takano
- Modern Christianity and Political Thought. An Overview
.....Sadamichi Ashina
- Religious and Artistic Elements of Emotion derived from
Heidegger’s BefindlichkeitNobuhiko Kawagiri
- Arendt’s Interpretation of Saint Augustine.....Toshihiko Imade
- Au commencement, était toujours le mal:
Le développement d’herméneutique de la genèse chez Ricœur
.....Keisuke Sato

京都大学基督教学会規約

- 一、本会は京都大学基督教学会と称し、事務局を京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科キリスト教学研究室に置く。
- 二、本会は基督教教学研究の進展を目的とする。
- 三、本会は前条の目的を達成するために以下の事業を行う。
 - (一) 研究集会、講演会などの開催
 - (二) 学会誌『基督教教学研究』の発行
 - (三) 内外の研究機関及び研究者との相互交流
 - (四) その他の必要な事業
- 四、本会は基督教教学研究に従事する者、もしくは本会の趣旨に賛同する者をもって構成する。
 - (一) 一般会員
 - (二) 学生会員 大学院学生及びこれに準ずる者。
 - (三) 会友 本会の趣旨に賛同するもので、研究集会での発表の機会と学会誌の配布を受けることができる。会友希望者は、委員会の承認により会友となることが出来る。一年以上会友であった者で、会員になることを希望する者は、会員二名の推薦により委員会の議を経て、総会で承認を受けるものとする。
- 五、本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれ

に充てる。
会費として、会員は年五千元、会友は年三千元を納めるものとする。

- 六、本会の運営のために次の委員を置く。
 - (一) 代表者 (二名)
 - (二) 委員 (若干名)
 - (三) 監事 (二名)
- 七、本会は毎年総会を開き、会計及び一般報告を行い、必要事項を協議する。
- 八、本規約は運営委員会の発議に基づき、総会において変更することができる。

附則

本規約は一九九八年十二月施行、二〇〇八年七月改訂。

運営委員会

代表者…高野晃兆
委員…林 忠良、片柳榮一、宮庄哲夫、勝村弘也、
芦名定道、竹田文彦、武藤慎一
監事…水垣 涉

第二十八号編集実務委員会

高野晃兆
林忠良
片柳榮一
宮庄哲夫
勝村弘也
芦名定道
竹田文彦
武藤慎一

二〇〇八年十二月二十日印刷
二〇〇八年十二月三十日発行

定価二一〇〇円
(本体二〇〇円)

発行者

京都大学基督教学会

京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科

発行人

高野晃兆

発売元

(株)一麦出版社

札幌市南区北ノ沢3丁目4-10

印刷所

(株)アイワード

本誌の御註文は、最寄のキリスト教書店、
もしくは、右記、京都大学基督教学会(振
替〇〇三〇一五―七二〇七)へ、定価二
一〇〇円(送料当方負担)を添えてお申込
みください。

JOURNAL
OF
CHRISTIAN STUDIES
KIRISUTOKYOGAKU KENKYU

Vol.28

December, 2008

STUDIES DEDICATED
TO
PROFESSOR EMERITUS EIICHI KATAYANAGI

THE SOCIETY OF CHRISTIAN STUDIES
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto Japan